

香楠会



最近の鳥栖高校正門前付近

2019
10月
[第17号]

同窓会長・学校長あいさつ	2
各界で活躍する同窓生	3
地元で活躍する同窓生	4
なつかしき恩師	5
母校の思い出	6～8
鳥栖高校・香楠中学校はいま	8～9
お知らせ・ご案内	10

◆題字／原 春代(旧姓 天本 雅号・春景 昭34年卒)
◆表紙絵／日山 軍記(昭35年卒)

「ごあいさつ」

香楠会(鳥栖高校同窓会)会長

指山 清範 (昭和59年卒)



香楠会の会員の皆様におかれましては、益々ご健勝にてご活躍のこととお慶び申し上げます。

本年は第43回全国高等学校総合文化祭が、「創造の羽を広げ、蒼天へ舞えバルーンが如く」のテーマのもと、佐賀県で開催されました。鳥栖高校

二十数年ぶりの鳥栖高校

学校長 林 嘉英



今年も暑い夏となりましたが、香楠会会員の皆様におかれましては、ますますご清祥のこととお喜び申し上げます。

縁あって、今年の4月に鳥栖高校・香楠中学校の校長を拝命いたしました。本校には平成2年度から平成8年度にかけて7年間、理科の教員と

からも多くの生徒が参加し、活躍されたと聞いております。また、スポーツの分野においても、野球や体操をはじめその活躍ぶりは目覚ましいものがあるかと伺っております。今後引き続き「知を愛し、和を敬い、心を培え」の校訓のもと、文武の両立が質・量ともに更に高みの域に達する学校として飛躍されることを大いに期待しています。

さて本年5月、元号が「平成」から「令和」に変わりました。令和元年の始まりに当

して勤めていたこともあり、感慨深いものがあります。当時と変わらぬ鳥栖高校の良さは、「生徒諸君が高校時代に様々な経験をして、希望進路を実現することができ

る」学校であることだと私は考えます。様々な経験をする活動と希望進路を実現するための学習を高いレベルで両立することは、生徒諸君にとって決してたやすいことではありません。しかし、生徒諸君はこのことを通して、AIの時代に求められる人間の強み

たり、ご即位された新天皇皇太后陛下とご皇室の弥栄、日本国の繁栄と世界平和、そして国民一人ひとりが幸せを享受できることを国民の一人として心から願わずにはおれません。

振り返れば平成の30年間は、戦争のない平和な時代でありました。しかし一方で、少子高齢化と人口減少というかつてない日本の危機的な状況に進んでいった時代でもありました。加えて低迷する経済と新たな格差の発生、それに追い打ちをかけるように多くの自然災害も発生しました。そして令和の時代。世界は

環境問題や地域間紛争など多岐にわたる「感性」「倫理観」「多様な考え方を持つ人の意見を調整する力」「責任をもってやり遂げる力」などを身に付けてくれます。

特に、今年是全国高等学校総合文化祭が佐賀県で開催されたこともあり、生徒諸君は代表として出場するだけでなく、多くの生徒が各部門の企画・運営にあたり、これらの力を発揮して活躍してくれました。

私は、鳥栖高校でこのような学びが可能な理由は、鳥栖高校の生徒が多様性に富むことと、伝統的にそれを受け入れるおらかな雰囲気があることだと考えています。

くの問題を抱えながら、更なる国際化、グローバル化が進展していくものと思えます。この新たな時代において、人種や性別、障害の有無などに関係なく、誰もが安心して暮らせる、世界の模範となるような地域社会を創りあげられるべく、同窓会といたしましても、その一翼を担っていくことができたいと思います。

結びに香楠会会員の皆様のご多幸ご健勝を祈念申し上げますとともに、鳥栖高校・香楠中学校の益々のご発展を祈念いたしましてご挨拶とさせていただきます。

現在の鳥栖高校には、香楠中学校から進学してくる生徒とそれ以外の中学校から高校入試を受けて入学してくる生徒がいます。それぞれの生徒が同じ教室の中で学ぶことで互いの強みに気づき、切磋琢磨しながら互いの良さを自分自身の中に取り入れていきます。このことが様々な経験を積む活動と学習を高いレベルで両立できる素地となっているのではないのでしょうか。

最後になりましたが、このような良き伝統を築いてくれた香楠会会員の皆様に感謝申し上げますとともに、ますますのご健勝とご多幸を祈念してご挨拶いたします。

熱烈歓迎!!



7月11日に東莞中学校(中国)と香楠中学校の交流会が香楠会館を利用して行われました。

● 各界でご活躍の同窓生 ●

野球殿堂入り

昭和32年卒(第9回生)

権藤 博



九六一年四月九日、後楽園球場。対巨人戦が初登板初先発。二死をとって、三番サード長嶋とアナウンスされた時。九州鳥栖の田舎者がこんな凄い処に立っている。これが天下の

長嶋か!!

二〇一九年一月十一日、一本の電話がかかってきた。『野球殿堂博物館ですが、この度権藤さんの博物館入りが決まりました。お目出度うございます。』来るべきものが来た。これが正直な感想でした。何しろ十一年間次点が続いていましたから。

プレーヤー表彰の立浪和義君。特別表彰の高野連元会長脇村春夫さん。そしてエキスパート表彰の私。博物館の壁にかかっているそうそうたるメンバーを見たら、これは凄い中に入った。密かに自分で自分を褒めた気持ちになった。

七月十二日オールスターゲーム前の表彰式で挨拶した。次の通り「一

思いきって投げたストレートは、強烈なライナーでレフトスタンドに向かって飛んでいき、やられたと覚悟したら、フェンスの角に当たってハネ返ってきました。これが野球人生のスタートでした。今日は一世一代の晴れ姿です。あらためてファンの皆様に感謝とお礼を申し上げます。ありがとうございます。」

そして花束を渡してくれたのが、後輩で三年連続オールスターゲーム監督の緒方孝市君だけに嬉しかった。皆さん見ましたか、鳥栖高校も大したもんだらう。内心うなづいた。

それにしても私の高校時代は何も

目立たず、遊び程度に野球をやっていました。BSタイヤに入社してから、何とか一旗揚げたいと、稲尾さんの物マネをして、目指すはプロ野球。猛練習したおかげで、体力抜群になり、中日入団から二年連続三〇勝と連投につぐ連投で、「権藤、権藤、雨、権藤。」の流行語まで生れた。

私にとつての母校は最高の誇りです。プロ仲間にはウチの高校はスゴイゾ!! 校内を歩いていても見知らぬ私にチャンとあいさつするし、本当に礼儀正しい。化粧してる子も、茶髪もない。

今しかないんだヨ。高校生は高校生らしく、大人になったら大人らしく出来るんだから、今しかない自分を大切に。



正門横に掲げられた横断幕

● 地元でご活躍の同窓生 ●

霧中の将来を見据えた3年間

平成2年卒(第42回生)

司法書士法人州都総合法律事務所 代表司法書士 原 弘安



この原稿の寄稿依頼を頂き、母校である鳥栖高校を卒業したころを振り返ると、早29年が経って

いました。私の寄稿を同窓生の方々が興味を持って読んでいただけると、どうかかわりませんが、ありのまま書きたいと思います。

出身が久留米市に隣接した町であったことから、久留米市の高校への進学へも検討しましたが、中学時代の友人たちと共に過ごしたいとの思いから鳥栖高校への進学を決めました。私たちの世代は、第二次ベビーブームの世代であり、成績の平均値が相当低くなっていることを知らされました。

私は、中学時代はサッカー部の主将を務め、高校でもサッカーに没頭するつもりでいたのですが、前記状況から進学への影響を考え勉学を優先することを検討することにしました。その当時、私は同級生の吉田隆

文(現・某大学医学部准教授)と将来への不安や現状への危機感をお互いに共有し、現時点での自分たちの成績では思った通りの将来が描けないのではと、いつも深夜まで話していました。その不安を進路指導の先生方に相談すると、丁寧にアドバイスをして下さいました。

病気

まさかのセンター試験の失敗により浪人することになりましたが、予備校に通い始めた6月、当時数万人に一人の難病を患うことになり、入院を余儀なくされ12月まで入院生活をしました。18歳の年齢で人生を諦めるか否かの重い難題を突き付けられました。九州に残ってほしいとの親の意向で九州大学への進学を決めました。九州大学法学部に進学後も、最初は病気の再発を恐れていましたが、自分なりに考え方を変えた(考えても仕方がないことをいつまでも考えない、結論は早く出すように)結果、病気の再発もなく、九州中の優秀な友人に恵まれ、非常に有意義

な大学生生活を送ることができました。

一生の仕事を見つける

病気を患ったことから、人生に対する考え方が大きく変わりました。自分の中では「頂いた命」という認識が強くなり、この命を世の中のために捧げる覚悟をしました。私を育ててくれたこの地域の方々の役に立つ仕事をするために、市民にとって身近な存在で相談しやすい「司法書士」という職業を志すことにしました。

地域貢献

司法書士は、企業や家族の様々な問題に関して相談にのることができ、私たちが事務所においていただければその方に応じた専門家や適切な対応をする機関を紹介することもできます。自らの業務だけではなく、公的機関等から依頼された沢山の役割も積極的に引き受けて、この地域のお役に立てるよう尽力しております。



学校評議員

香楠中学校、鳥栖高校の学校評議員という学校教育への諮問機関の役員を、前任の徳渕市浩先生から引き継ぎまして、母校の学校教育に関わらせて頂いております。関わっていただく中で、生徒たちのことや保護者の方々のことを考えて教育されていらっしゃる学校・先生方に感心させられた次第です。

現在

司法書士事務所としては全国でも有数の規模の事務所にしていただき、事務所の所員・先生方も業界の仕事だけではなく、さまざまな地域貢献も自らの役割として懸命に取り組んでおります。

私もその法人の代表として、今後もこの地域により貢献できるように邁進していきたいと思います。私の礎を築いてくれたのは、鳥栖高校で霧の中を夢中で藻掻いた三年間であり、その当時関わって頂いた先生方や友人たちにも感謝しております。

最後に、このような機会を頂いたことに感謝するとともに、在校生・同窓会の皆様方の今後の繁栄とご健勝を祈念しております。

なつかしき恩師

あの頃は……

保健・体育科 吉田 信代先生

鳥栖高勤務 昭和63年4月～平成8年3月

昭和六十三
年四月
から八
年間鳥

栖高校にお世話になりました。皆様お元気ですか。あの頃は私も若かったがそれなりに元気に過ごしています。

鳥栖高校に勤務が決まった時、嬉しさと楽しみで一杯でしたが、保健主事と新体操部顧問という新任校でのスタートとなり、一気に不安になってしまいました。そんな私を、新体操部のことは前任の先生、保健指導部のことは養護教諭の先生に色々細部にわたって支援して頂き、本当に助かりました。赴任当初、少なかった部員数も、数年後には、団体種目が組めるようになり納得いく試合結果を出すことができました。体育の授業は、まだ男女別の授業でした。女子の創作ダンスの授業が始まると、「ブンブンダー」という曲でみんなが生きて生きと笑顔で動き出します。班別での創作活動に入ると、さすが鳥栖高生だと思える創造力と表現力があり、発表会ではどの班も素晴らしい作品に仕上がっていました。卒業生に会うと「あの曲でもう一度踊りたい」と言ってくれます。今でも記憶に残る一曲です。私もあの頃は何時も生徒達と一緒に動いていました。平成五年に16HRの担任になり、

「一年間クラス全員欠席ゼロ」というクラス目標を立てました。先生方や保護者の皆様にご理解とご協力を頂き、又生徒達全員の頑張りで見事目標を達成する事ができました。そして、その学年と三年間を共に過ごしました。毎年大

学合格者の氏名が職員室の壁に貼られますが、その数は年々増えていました。この学年が初めて国公立大学合格者100名突破を成し遂げました。生徒達の努力と進路指導部や先生方の指導の賜であり、鳥栖高校が着実に前進していた時代でした。

こうした環境に身を置くことができ、私にとって貴重な八年間でした。人間のする仕事の成功も失敗もその人を取り巻く環境や生き方で作られるものだとこの齢になり、しみじみと感じられます。

久々にあの頃の生徒達と鳥栖高を思い出して大いに若返る事ができました。皆様のご健勝と鳥栖高校の益々の発展を祈念致します。



16HRの生徒達

鳥栖高校に赴任して

私の鳥栖高校での勤務は、平成7年4月から平成16年3月までの9年間でした。当時平成元年から始まった『新生・鳥栖高校』の名のもとに、

素晴らしい進
学実績を上げ
ていたこの高
校で、私にそ
の役割が務ま
るのだろうか
という不安を抱
いて赴任したこ
を
今でもよく覚えて
います。最初の3
年間は何とか持ち
上げさせて頂いた
のですが、学年主
任の築田先生をは
じめ、同じ学年の
先生方にはいろい
ろな面でご迷惑を
おかけしました。

鳥栖高校での思い出

数学科 山田 康智先生

鳥栖高勤務
平成7年4月～平成16年3月

楽しかった思い出
もちろんいい思
い出も多くありま
す。文化祭のクラス企画で生徒と一
緒に考えて活動したり、悩んだりし
たこと。平成13年春と平成14年夏は
野球部が甲子園出場を果たし、両方
とも私も応援バスに乗り、生徒たち
と一緒に球場で応援したことなど。
今でも心に強く残っています。そし
て最後の3年間は当時特別クラスと

言われていたクラスを担任として持たせて頂いて、重圧感・プレッシャーを感じながらも、学年主任の大塚先生をはじめ、多くの先生方に励まされながら、生徒たちと共に成長することができました。数学の教師としての自信もつき、やりがい・達成感のある3年間となりました。本当に多くの先生方、生徒たちに支えられて、楽しい9年間を過ごすことが出来ました。

鳥栖高校を離れて

鳥栖高校を離れて15年余りが過ぎています。近年まであと数年となりましたが、今でも鳥栖高校で過ごしたこと学んだことが大きな支えとなっています。毎年送って頂いているこの会報「香楠会」を見ていますが、本当に素晴らしい進学実績や部活動の活動状況を見て、県内にとどまらず、



甲子園の応援風景

全国に鳥栖高校の名前が響き渡っていることを感じます。在校生の皆さんには、諸先輩方に負けない、さらなる発展を期待しています。

生涯野球小僧を目指して

昭和34年卒(第11回生) 中牟田 賢治



してきた昭和24年の秋に、野球仲間と鳥栖高校野球部を創立。

私は兄の練習について来て球拾いをしたのが野球との出会いであった。

入学した31年に野球部に入り、以後今日まで野球と人生を共にして来たと言っても過言ではない。卒業後福岡大学でも野球に打ち込みその後、博多高校の野球部の監督を8年間務めた後、佐賀県教育委員会に入庁した。

もともと鳥栖地区は野球が盛んでプロ野球界で活躍した名選手を多数輩出している。藤木町出身で久留米商業高校から南海、巨人、西鉄のエース投手として活躍、後に西鉄ライオンズの監督になられた川崎徳次氏。昭和32年卒の権藤博氏はブリヂストンから中日に入りその年30勝以上上げて新人王の快挙を成し、後に横浜ベイスターズの監督として日本一に輝き、又今年野球殿堂入りなどプロ野球界きつての著名人。現在広島島の緒方孝市監督も著名人の一人である。

私が高1の時、権藤投手を擁する鳥栖高校は夏の甲子園予選である西九州大会前の佐賀県大会決勝戦で惜敗した。

その試合で勝っていれば甲子園初出場は夢ではなかったと未だに忘れられない思い出となっている。

「ストライク、ボールの判定」の難しさか、はた又、主審の主観の問題か?!と。平成13年、県庁退職を機に昔からの野球仲間と元気で生きている限り野球を続けて行こうと「佐賀県生涯軟式野球連盟」を発足。

今では福岡、長崎、熊本、大分、佐賀の北部九州5県による交流戦を「還暦」「古希」「寿」「喜寿」の4部門で毎年実施。

会員は、上は94歳から下は58歳まで約600名。年間200試合を戦う迷?球界である。

年中野球三昧「ピン、カン、コロリ」をモットーに老体にムチ打ちながらの野球小僧人生である。



平成27年度 つくし 寿 平成27年2月13日
前列左端が筆者

私と鳥栖高校

昭和54年卒(第31回生) 中村 絵理



卒業して早や40年、私にとつての鳥栖高校は、小学生から高校卒業までの8年間、ひたすら体操競技に没頭した場所でした。

昭和46年、私が小学5年生の頃、佐賀国体(昭和51年)を5年後に控え、国体5年前計画が実施されました。関谷英正先生指導のもと、鳥栖・基山地区から小学生が集い結成されたのが、当時、日本でも珍しいジュニア育成の先駆け「鳥栖体操クラブ」でした。小学生の私はトランポリンで遊べる嬉しさもさることながら、大人の高校生に交って練習出来るという誇らしさを胸に、小学校の授業が終わると祖父に連れられ鳥栖高校の練習場へ通ったものでした。

でも、あれほど楽しみに通った練習も、年を重ねるにつれて、徐々に厳しさを増していき、時には練習場から逃げ出したくなることも再三ありました。正月の3日間しか休みは貰えず、台風で体育館の屋根が吹き飛んでも練習は続けられました。高校入試前日の夜も自分の受験番号が書いてある机を確認して帰ったことを鮮明に覚えています。その頃は全てが体操競技中心の生活で

した。

卒業後日本体育大学へ進学し、大学を卒業後は、様々な仕事に就きました。どこへ行っても、高校生活で教えて頂いたいくつかの言葉は心の中に根を張っていました。例えば、「花が枯れても根を腐らすな」などの言葉です。何事も継続すること、どんな逆境の中でも腐らず自分を信じて前へ進めば、いつかきつと花は咲く、という意味でしょう。

紆余曲折あって、私は今人生の折り返し地点に立っています。後悔のない、充実した人生を送っているのだろうか。これからも自分を信じて前を向き続けることが出来るのだろうか。いつも高校時代で教えていただいた言葉を思い出しながら自問自答しています。

関谷先生に出会い、鳥栖高校にお世話になっていなければ、今の私は存在しません。果てしない人生という航海に漕ぎ出した私を、今日も鳥栖高校は見守ってくれています。関谷先生、鳥栖高校、本当にありがとうございます。



体操部一列目右

『私の原点』

昭和57年卒(第34回生)

香楠中学校副校長 松雪 誉



この春、38年ぶりに職員として鳥栖高校に戻ってきました。

思い返すと、真っ黒に日焼けし丸刈りで過ごした私の高校での3年間は、水泳と少しの勉強に明け暮れた毎日でした。

当時鳥栖高校には、50m×9コースの公認プールがありました。入学時に水泳部はなく、中学校時代の水泳部仲間と共に、2名の先輩がいる水泳同好会に入って活動を始めました。当然、水泳を専門に指導してくださる先生もおられず、自分たちでメニューをつくり練習をしていました。

部員も少しずつ増え、私たちが2年生になると水泳部に昇格して、3年時には県高校総体で男子総合3位を獲得するまでになりました。水泳、勉強でライバル視していた学校名を挙げ、「打倒佐賀学園!! 打倒佐賀西!!」と部室に大きな貼紙をして、水泳部活動や部活動後の部室内での勉強会など頑張っていたことを懐かしく思い出します。

一方、同級生に会うと必ず話題に

なる修学旅行や3年時の鳥栖高祭に水泳大会出場のために参加できず、話題が共有できな

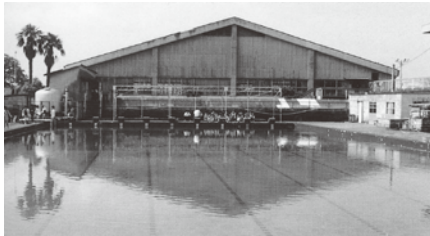
いことはちよつぱり残念です。

そんな、思い出のプールが、平成18年、香楠中学校体育館新築のために解体されました。県立高校の体育教師となっていた私は、「いつかは鳥栖高校で水泳指導をしたい。」という密かな、そして強い想いを持っていました。叶わぬ夢となってしまいました。

そんな、母校での勤務を諦めかけていたところに香楠中学校勤務を命ぜられました。今は、思い出のプール跡地に立つ中学校体育館で生徒の前に話をさせてもらっており、複雑な気持ちもあります。

近年、SNSが普及して、鳥栖高校の同級生の輪が広がりがつあり、集まる機会も増えてきました。今、あの頃話せなかった同級生ともたくさん話ができます。

来年は、私達第34回生が大同窓会を担当することに決まっています。楽しい集まりにしたいと考えていますので、乞うご期待!!



ありし日の50m公認プール

学生時代を振り返ると

平成27年卒(第67回生) 竹並 史智



放課後は部活動に明け暮れた毎日でした。

朝は小テスト、昼間は授業、授業が終わると走って部活へ向かっていました。学生生活の中心は勉強ではなく部活になっていましたが、部活だけやっていけばいいというわけにもいきませんでした。朝の小テストに合格しなければ、放課後は追試となり、部活に行けませんでした。そのため、毎週必死に勉強しました。小テストの結果がわかる瞬間はいつもドキドキしていて、今でもその時の事をよく覚えています。

部活動はバドミントン部でした。高校からバドミントンを始め、初心者という事もあり、最初は自分の思い通りにいかずとても悔しい思いをしました。顧問の先生がとても熱心な先生だったので、すぐに上達する事ができました。ダブルスの練習をする際、先生は私たちと同じコートに立ち、一人で二人の相手をしてくださりました。今になってあの

頃はとても恵まれた環境で部活動ができていたなと思います。顧問の先生にはとても感謝しています。社会人になった今でも高校の時の仲間と集まって食事をしたりしますが、いつも部活動の思い出で盛り上がっています。

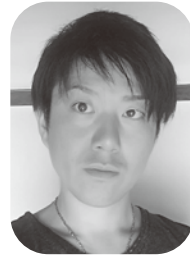
社会人になってとても感銘を受けた考えがあります。「成功」の反対は「何もしない事」という考えです。「成功」の反対は「失敗」と思われがちですが、そうではありません。何もしなければ成功はしません。当たり前ですが私自身、社会人になって初めてこの事に気づきました。以前の私は失敗を恐れ何でも後回しにしていました。今では失敗を恐れずとにかくやってみる事を心がけています。失敗したら反省を、二度同じ失敗をしないように工夫しています。大変おこがましいですが、香楠中・鳥栖高の皆さんに私がぜひ伝えたいのは、失敗を恐れず何事も挑



バドミントン部員とともに

今の自分、そして鳥栖高校時代

平成10年卒(第50回生) 藤戸 祐次



「出会い」、この一言がまず私の頭に浮かんだ。鳥栖高校での出会いがあったから、今の自分がある……

高校時代、私は帰宅部に入部。非常に自由の多い部だったので、その時間を友達や先生方と過ごすことができ、学びに遊びに充実した高校生を送っていた。

ところが、2年生終了頃から様々な心の悩みで自分自身が押し潰されそうになり、3年生になると学校を辞めようとして考えるようになった。そんな3年生の1学期、体育祭の話が持ち上がった。1、2年生の時の楽しかった情景が蘇った。感動的だった応援合戦。先輩方の勇姿。その中心にいた「団長」の姿。ふと心の中に「団長に立候補してみようか」という考えが浮かんだ。

答えはいつも風の中……接戦だったが、団長に選ばれた。それからが本当のスタートだった。団長の仕事は想像以上に大変だった。自分の力でこれまで何でも乗り越えてきたという根拠のない自信は瓦解した。クラスメイトと話し合いを重ねる中で自分では考えもつかないアイデアが

次々に提案され、世界が広がる。私の中の「何か」が変わっていった。かつてない充実感があつた。「学校を辞めようか」などと悩んだことすら忘れ、仲間とともに没頭した。

結果は応援合戦1位！素直に嬉しかった。しかし、それ以上に私にとって大きかったものは、この仲間たちとの出会いだった。

今、社会人となり、父となり、幾多の困難も乗り越えることが出来ているのは、高校時代にこの経験があったからだ。

来年は「2度目の成人式」を迎える節目の年だ。現在、幹事が集い「2度目の成人式」を計画中である。日程は令和2年1月2日。場所は花やしき。秋頃には連絡予定だ。多くの先生方や同級生に懐かしい時間を過ごしてもらえるように、今日も打ち合わせに行く。



体育祭の平面も「出会い」がテーマだった！

「2度目の成人式」については下記のQRコードからアクセスしてメールでお問い合わせください。



鳥栖高校・香楠中学校はいま…

～知を愛し 和を敬い 心を培え～

平成31年3月 大学入試合格状況 (延べ人数)

*国公立大学112名

東北大学1名・千葉大学1名・東京外国語大学1名・東京海洋大学1名・静岡大学1名
名古屋大学1名・京都大学1名・大阪大学2名・神戸大学1名・鳥取大学1名・広島大学5名
山口大学2名・徳島大学1名・九州大学11名・九州工業大学3名・福岡教育大学1名
佐賀大学27名・長崎大学12名・熊本大学16名・大分大学1名・宮崎大学1名・鹿児島大学2名
横浜市立大学1名・都留文科大学1名・福知山公立大学1名・大阪市立大学1名
山陽小野田市立山口東京理科大学1名・下関市立大学1名・高知工科大学1名・北九州市立大学3名
福岡県立大学3名・長崎県立大学4名・宮崎公立大学2名

*私立大学444名 (延べ人数)

早稲田大学2名・中央大学2名・東海大学2名・芝浦工業大学1名
津田塾大学4名・同志社大学5名・立命館大学16名・関西大学1名
関西学院大学5名・近畿大学11名・奈良大学8名
西南学院大学63名・福岡大学134名・筑紫女学園大学15名・久留米大学55名
九州産業大学28名・中村学園大学13名・崇城大学11名 など

* 鳥栖高校 部活動の活動状況 *

◇佐賀県高等学校総合体育大会 結果◇

(体操部) 女子団体総合 1位

女子個人総合 1位 粉井野々華 2位 野口祐美賀 3位 田島やまぶき

女子種目別跳馬 1位 田島やまぶき 平均台 1位 粉井野々華

段違い平行棒 1位 粉井野々華 ゆか 1位 粉井野々華

(男子卓球部) 団体ベスト 8

(女子卓球部) 団体 2位 シングルス 1位 本村凜子 ダブルス 3位 永井ゆか、本村凜子

(男子バレーボール部) ベスト 8

(女子バレーボール部) ベスト 8

(女子バドミントン部) 団体ベスト 8

(男子陸上部) 学校総合 8位 400m 1位・200m 5位 生野龍海 走高跳 4位 森輝也

円盤投 5位 中村優汰 4×400mリレー 5位 寺西育哉、久保田悠太、生野龍海、白濱龍之介

(女子陸上部) やり投 2位 堤二知佳 200m 5位 横尾百音

4×100m 6位 溝添瑠華、城戸美空、西山明世、横尾百音

※ 以上の陸上部は北九州地区大会出場

(男子水泳) 平泳ぎ 50m 2位・平泳ぎ 100m 2位・平泳ぎ 200m 2位 山本怜央

(女子水泳) 自由形 100m 1位・自由形 200m 2位 佐々木きらら

◇全九州高等学校体育大会◇

(体操部) 女子団体優勝

個人総合優勝 2連覇!! 野口祐美賀

(個人種目別、跳馬 2位、ゆか 1位、平行棒 1位、平均台 1位)

個人種目別 跳馬 1位 田島やまぶき

◇全国高等学校総合体育大会出場◇

(体操部) 団体 野口祐美賀、粉井野々華、土川和、社家間由希

田島やまぶき、弓 和佳乃、

個人 大隈愛望、古賀向日葵、北村果穂、社家間美羽

(卓球部) 女子個人 本村凜子

◇全国高等学校総合文化祭出場◇

(吹奏楽部) 吹奏楽部門 (音楽部) 合唱部門

綱和葉、小柳菜々音〔小倉百人一首かるた部門〕 古賀祐矢〔将棋部門〕

石井友理〔器楽・管弦楽部門〕 立石美月〔詩吟剣詩舞部門〕

◇第41回全国高等学校小倉百人一首かるた選手権大会出場◇

綱和葉、三岡鈴音、小柳菜々音、江頭加奈、森暖花、松浦綾音、朝崎花菜

◇第60回佐賀県吹奏楽大会◇

(吹奏楽部) 高校Aパート 金賞

◇第101回全国高校野球選手権佐賀大会

(野球部) 準優勝

第74回国民体育大会(いきいき茨城ゆめ国体) 出場

(体操部) 野口祐美賀、粉井野々華、社家間由希、田島やまぶき

(陸上部) 少年A 400m 生野龍海

(女子バレーボール部) ビーチバレーボール 毛利瑠那、森菜乃子

※今回は紙面の都合上、香楠中学校の部活動の状況を割愛させていただきました。ご了承ください。



全国高校野球選手権佐賀大会、準優勝
写真提供：ヒサノ写真館様

第34回 鳥栖高等学校香楠会 大同窓会

開催テーマ **つなぐ・つながる 2019**

開催日 **2019年11月2日(土)**

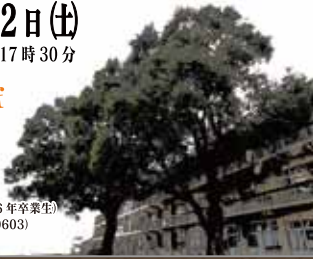
受付 17時00分～ 開会 17時30分

**17時30分
kick off**

会 場 ホテルピアントス

会 費 5,000円

主催：鳥栖高等学校同窓会香楠会（主幹：昭和56年卒業生）
お問い合わせ：同窓会事務局（TEL. 0942-82-0603）
（10：00～14：00）



今回の大同窓会は昭和 56 年3月卒業生が担当いたします。多くの同窓生のご参加をお待ちしております。
(大同窓会実行委員会)

会報「香楠会」発行について

平成 30 年度は、833 名の方の年会費納入のご協力が得られました。

皆様方から頂いた年会費は、会報の発行費用及び後輩応援のための激励金として活躍した部活動支援に使わせて貰っています。今後も鳥栖高校、香楠中学校の活躍を応援していきたいと考えておりますので、年会費のご協力をお願いします。

第 17 号は卒業回数が奇数回の方にお送りしています。年会費をお納めいただいている方には毎年お送りしております。



激励金授与式風景



激励金授与式後

◎ごぞんじですか？

ふるさと納税をお考えの卒業生の方へ

佐賀県ではふるさと納税「施策応援コース」で母校（鳥栖高校）を指定することができます。寄付が、学校の予算に上乘せされる制度です。よければ後輩のため母校発展のためお考え下さい。

佐賀県のホームページで下記のアドレスにアクセスしていただくと説明があります。

<https://www.pref.saga.lg.jp/kiji00331849/index.html>

新元号「令和」を迎えた今年、香楠会報第17号を発行することが出来ました。創刊号より振り返ってみますと、時の流れとともに多くの方々にご協力いただいたことが伺えます。恩師や友人の懐かしい思い出話、また、在校生や卒業生の活躍等お知らせしております。皆様で寄稿のご希望がありましたら是非、同窓会事務局までお寄せください。香楠会報により同窓生の絆をさらに深めることが出来ればと考えています。

会報委員

徳測 市浩

編
集
後
記

役員総会報告

令和元年 5 月 29 日(水) 18：30～香楠会館にて 65 名(委任状含む)の参加により開催されました。その席で前年度の事業・決算報告、今年度の事業・予算計画が承認され同窓会活動のスタートを切れました。尚、今年度は役員改選の年にあたっており、長年お世話いただいた 8 名の方がご勇退になりました。終了後懇親会も行いました。

◎会報決算報告

- ・ 会報「香楠会 16 号」発行に 1,435,466 円支出。9,714 通発送
- ・ 年会費による収入 1,666,000 円

同窓会事務局からのお願い

長年関東地区の同窓会をお世話してくださった会長、副会長様のご勇退になりました。後任の方が見つかっておりませんので、関東地区のお世話をしてもよいとお考えの同窓生は事務局までご連絡ください。

ホームページについて

大同窓会の案内や、鳥栖高のあゆみ、鳥栖高人物録などを掲載しています。また、住所変更などの各種変更手続きもホームページより受付できます。下記の QRコードをご利用ください。

ホームページアドレス

メールアドレス



〈お願い〉

住所変更等で会報が届かなくなっている方が年に 100 名程いらっしゃいます。会報を希望される方は住所が変わられましたら事務局までご連絡ください。手続きはホームページからもできます。（同窓会事務局）